

## 中国での生活が始まりました

加藤 佳奈子

現在、山西省太原市に来て1ヶ月が経ったところです。日本はまだ暑い日が続いていると思いますが、この北方の町は海拔も高いため9月でも朝夕はずいぶん冷え込み、厚手の上着が必要なくらいです。

出発前に聞いていたとおり、ここは青空の広がる日が多い場所なのですが、反面、非常に乾燥した気候でホコリが立ちやすく、肌も日本にいたころよりずっとガサガサになってしまうといった困ったことも起きています。

中国は一般的に道路が広く、車道が片側4、5車線あるということもザラでどうやって横断したらいいのかと圧倒されてしまうのですが、太原市もこの例にもれず幅の広い道路が東西南北にのびています。町の規格が日本以上に大きいので、歩いてどこかに行く、というのはなかなか難しく、バスやタクシーで移動しなくてはいけません。(電車は長距離移動用のものだけで、市内には地下鉄はありません。) 交通規則もまだ整っていないといえないので、この国の交通事情にはこれからも悩ませられるんだろうなと思います。

さて、この町に着いてまず驚いたのは人の性格が想像以上に慎み深いことでした。太原の人は自分たちを保守的だといって謙遜しますが、人への接し方が日本人と似ていて、「ありがとう」「ごめんなさい」、そして「気をつけて」など、ちょっとした気づかいが心地よい場所です。ちなみに去年の夏まで生活をしていた中国の南の地域は一般的に開放的で人懐っこい人が多いといわれていて、たしかに人との距離が近いという印象が強かったのですが、挨拶などは日本人の私からするとどこかそっけないなとも思っていました。中国では国を北と南に大別して文化や習慣、また人について語ることが多いのですが、本当に北と南では様子が違うなと肌で感じる日々です。

9月上旬から出てきた日中関係の問題のため、外出や遠出を控えることが多かったのですが、まだ太原市内について、また山西省の他の地域についてもわからないことばかりです。この問題が鎮静化してきたら、すこし散策に出てみようと思います。



中心街に向かう途中の道路。片側6車線あります。



果物はスーパーより路上の果物屋さんの方が新鮮で安いです。